

演習問題 1.4 関係  $\sim$  が次の 3 つを満たすとき同値関係と言う。

(1)  $a \sim a$

(2)  $a \sim b \implies b \sim a$

(3)  $a \sim b \wedge b \sim c \implies a \sim c$

上で定義した  $\equiv$  が同値関係であることを示せ。

(1)  $a \in \mathbb{Z}$  に対し  $a - a = 0 = n \cdot 0$  となるので  $a - a = 0 \in n\mathbb{Z}$  である。よって  $a \equiv a \pmod{n}$  が成立する。

(2)  $a \equiv b$  が成立しているとき  $a - b \in n\mathbb{Z}$  より  $\exists m \in \mathbb{Z} \ a - b = nm$  となるこのとき  $b - a = n(-m)$  なので  $b - a \in n\mathbb{Z}$  となり、 $b \equiv a \pmod{n}$  が成立する。

(3)  $a \equiv b \pmod{n} \wedge b \equiv c \pmod{n}$  が成立しているので  $(\exists m_1 \in n\mathbb{Z} \ a - b = nm_1) \wedge (\exists m_2 \in n\mathbb{Z} \ b - c = nm_2)$  となる。このとき  $a - c = (a - b) + (b - c) = nm_1 + nm_2 = n(m_1 + m_2)$  となるので、 $a - c \in n\mathbb{Z}$  であり、 $a \equiv c \pmod{n}$  となる。

演習問題 1.5  $\mathbb{Z}_{10}$  および  $\mathbb{Z}_9$  の各元の位数を求めよ。

最初に  $\mathbb{Z}_{10}$  について考える。 $[0]$  はすでに単位元 (零元) なので位数は 1 である。 $[1]$  は

$$2[1] = [1] + [1] = [2], 3[1] = [1] + [1] + [1] = [3], \dots$$

と足して行くと  $10[1] = [0]$  で 10 で初めて  $[0]$  になるので位数は 10 である。 $[2]$  は

$$2[2] = [2] + [2] = [4], 3[2] = [4] + [2] = [6], 4[2] = [6] + [2] = [8], 5[2] = [8] + [2] = [0]$$

なので位数は 5 である。 $[3]$  は

$$1[3] = [3], 2[3] = [6], 3[3] = [9], 4[3] = [2], 5[3] = [5], 6[3] = [8], 7[3] = [1], 8[3] = [4], 9[3] = [7], 10[3] = [0]$$

なので位数は 10 である。以下途中計算を省略すると  $[4]$  のとき

$$[4], [8], [2], [6], [0]$$

となり位数は 5 である。 $[5]$  のとき

$$[5], [0]$$

で位数は 2 である。 $[6], [7], [8], [9]$  は

$$[6], [2], [8], [4], [0]$$

$$[7], [4], [1], [8], [5], [2], [9], [6], [3], [0]$$

$$[8], [6], [4], [2], [0]$$

$$[9], [8], [7], [6], [5], [4], [3], [2], [1], [0]$$

なので [6] の位数は 5, [7] の位数は 10, [8] の位数は 5, [9] の位数は 10 である。

次に  $Z_9$  について考える。[0], [1], ..., [8] を累加していくと,

$$\begin{aligned} & [0] \\ & [1], [2], [3], [4], [5], [6], [7], [8], [0] \\ & [2], [4], [6], [8], [1], [3], [5], [7], [0] \\ & [3], [6], [0] \\ & [4], [8], [3], [7], [2], [6], [1], [5], [0] \\ & [5], [1], [6], [2], [7], [3], [8], [4], [0] \\ & [6], [3], [0] \\ & [7], [5], [3], [1], [8], [6], [4], [2], [0] \\ & [8], [7], [6], [5], [4], [3], [2], [1], [0] \end{aligned}$$

となるので [1], [2], [4], [5], [7], [8] は位数 9, [3], [6] は位数 3, [0] は位数 1 である。

**演習問題 1.6**  $G = \mathbb{Z}_{12}$  とする。  $H = \langle 9 \rangle$  とするとき剰余類分割を求めよ。また  $N = \langle 2 \rangle$  とするとき, 剰余類分割を求めよ。

$H = \langle 9 \rangle$  と書くべきでしたね。  $2[9] = [6], 3[9] = [3], 4[9] = [0]$  なので  $H = \{ [0], [3], [6], [9] \}$  である。  $[1] \notin H$  である。

$$[1] + [0] = [1], \quad [1] + [3] = [4], \quad [1] + [6] = [7], \quad [1] + [9] = [10]$$

なので  $1 + H = \{ [1], [4], [7], [10] \}$  となるがこの集合を  $H_1$  と書く。  $[2] \notin H \cup H_1$  である。

$$[2] + [0] = [2], \quad [2] + [3] = [5], \quad [2] + [6] = [8], \quad [2] + [9] = [11]$$

なので  $2 + H = \{ [2], [5], [8], [11] \}$  となるがこの集合を  $H_2$  と書く。  $H \cup H_1 \cup H_2 = G$  なのでこれが求める剰余類分割である。即ち

$$G = \{ [0], [3], [6], [9] \} \cup \{ [1], [4], [7], [10] \} \cup \{ [2], [5], [8], [11] \}$$

となる。

$2[2] = [4], 3[2] = [6], 4[2] = [8], 5[2] = [10], 6[2] = [0]$  なので  $N = \{ [0], [2], [4], [6], [8], [10] \}$  である。  $[1] \notin N$  である。

$$[1] + [0] = [1], [1] + [2] = [3], [1] + [4] = [5], [1] + [6] = [7], [1] + [8] = [9], [1] + [10] = [11]$$

なので  $[1] + N = \{ [1], [3], [5], [7], [9], [11] \}$  となる。

$$G = \{ [0], [2], [4], [6], [8], [10] \} \cup \{ [1], [3], [5], [7], [9], [11] \}$$

が剰余類分割である。

$[1] \notin N$  で剰余類分割を作ったが, 他の元で作っても同じ結果になる。例えば  $[3] \notin N$  なので

$$[3] + [0] = [3], [3] + [2] = [5], [3] + [4] = [7], [3] + [6] = [9], [3] + [8] = [11], [3] + [10] = [1]$$

となる剰余類分割は

$$G = \{ [0], [2], [4], [6], [8], [10] \} \cup \{ [1], [3], [5], [7], [9], [11] \}$$

である。

演習問題 1.7  $|\langle g \rangle| = |g|$  を示せ。

$|g| = n$  とすると  $g^n = e$  (単位元) であり,  $m < n$  となる自然数に対しては  $g^m \neq e$  である。 $H = \{ g, g^2, g^3, \dots, g^n \}$  であり,  $\ell \leq n, m \leq n$  となる自然数  $\ell, m$  に対し  $g^\ell \neq g^m$  が言えれば  $|H| = n$  となる。

$H = \{ g, g^2, g^3, \dots, g^n, g^{n+1}, \dots, g^k, \dots \}$  なので  $k$  を  $k > n$  となる任意の自然数とする。このとき  $k = pn + r$  となる整数  $p, r$  ( $0 \leq r < n$ ) が存在する。 $r = 0$  のとき  $k = pn$  なので  $g^k = g^{pn} = (g^n)^p = e^p = e = g^n$  である。 $0 < r$  のときは  $g^k = g^{pn+r} = g^{pn}g^r = (g^n)^p g^r = e^p g^r = g^r$  となる。いずれの場合も

$$g^k \in \{ g, g^2, \dots, g^n \}$$

となる。

今  $\ell, m \leq n$  となる異なる自然数  $\ell, m$  に対し  $g^\ell = g^m$  が成立していたとする。 $\ell > m$  のときは  $g^{-1}$  を  $m$  個かけることにより  $g^{\ell-m} = e$  を得る。 $\ell - m < n$  なので  $n$  の定義に矛盾する。 $\ell < m$  のときは  $g^{-1}$  を  $\ell$  個かけることにより  $e = g^{m-\ell}$  を得る。 $m - \ell < n$  なので  $n$  の定義に矛盾する。よって  $g^\ell \neq g^m$  なので  $|H| = n$  である。